

# 「常陸多賀」 on the table

日立市・常陸多賀地区には、海と山に挟まれた自然豊かな地形と温暖な気候、生活家電の生産拠点として人々の暮らしの質を支えてきたものづくりの歴史、地域に根ざした古くからの商店街とコミュニティ、学生や若手事業者といった次世代の担い手たちなど、様々なポテンシャルがあります。

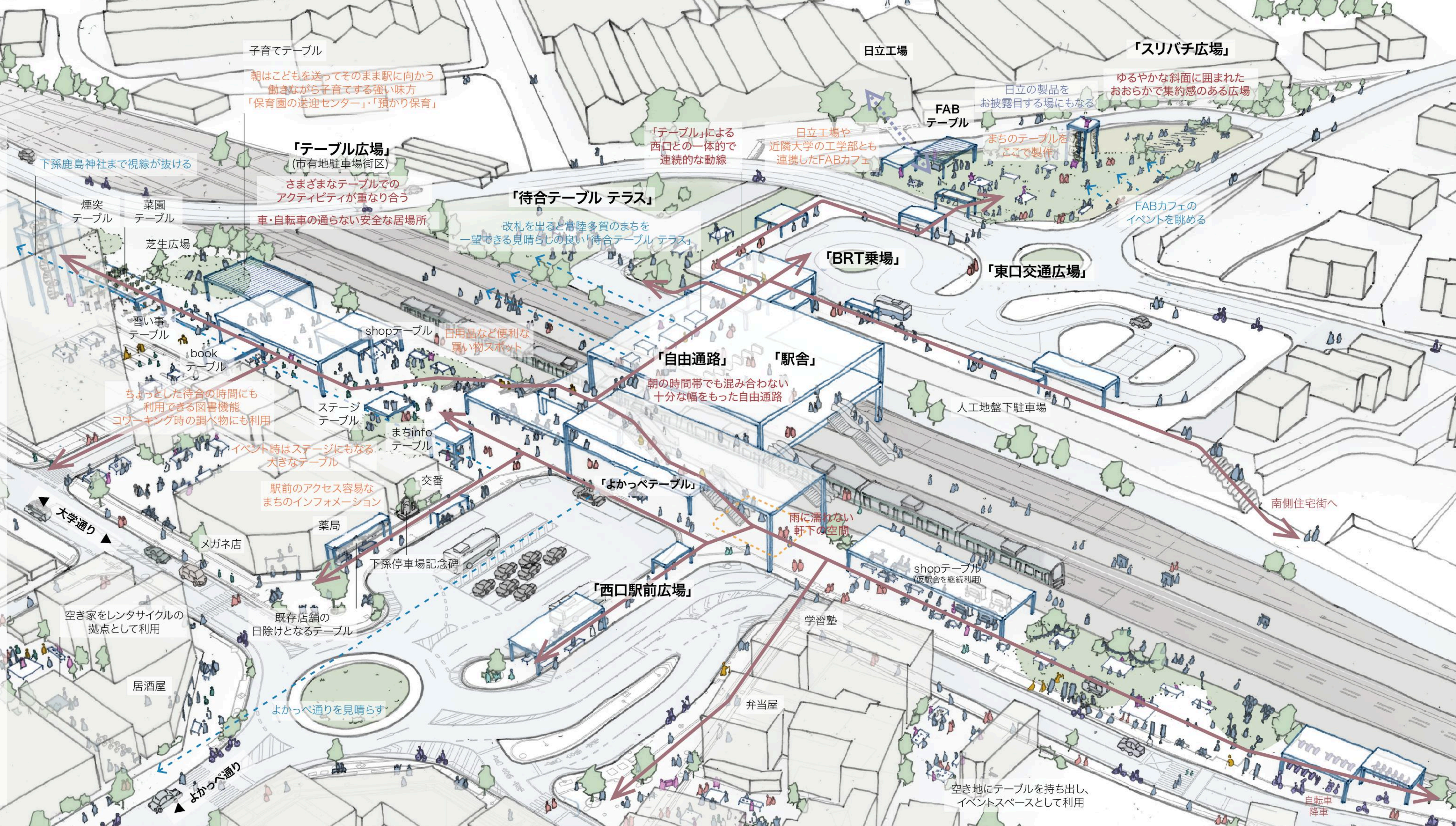
一方で、少子高齢化による人口密度の低下、空き家・空き地の増加による市街地のスポンジ化、公共施設の老朽化などの課題に直面しているこのまちの新たな駅前空間に期待されているのは、単に交通の結節点としての利便性や何でも揃う商業機能、一時の賑わいに止まらない、まちのポテンシャルを新たに魅力・アイデンティティとして再定義するような場であり、駅前整備のその後も地域全体に伝播し、自走していく概念を体現するあり方です。

私たちは、様々な背景を持った人々、交通、情報、文化資源が交差する駅前空間を起点に、常陸多賀ならではの文脈を共有するプラットフォームとして「on the table」という概念を提案します。

on the table [ɔ:n / ðə / téibl]

1. 卓上の [に]
2. [議案・計画などが] 検討中で、審議中で  
table:【語源】ラテン語の tabula。平たい板の意。

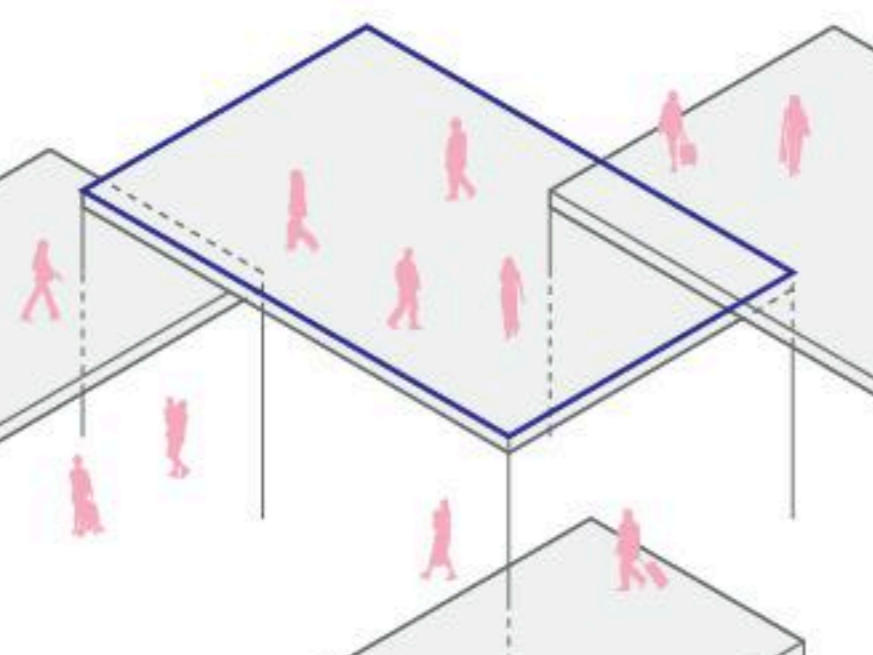
あらかじめ用意された空間やコンテンツを受容するだけでなく、自分たちで様々な文脈を持ち寄り、つなげ、新たに価値付けようとする事、まさに「on the table = 検討中」である、まだ何ものでもない完結しないあり方が、常陸多賀のこれからの魅力をかたちづかっていくと考えます。



on the table は建築、設え、組織、行為、風景といったスケールや特性が異なる振る舞いを横断するデザインコードです。

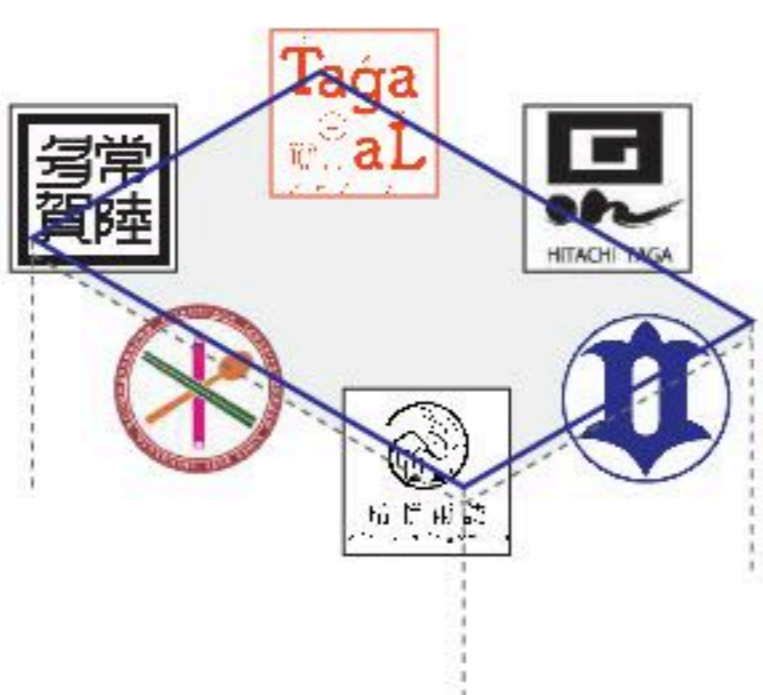
## かたちとしての on the table

駅舎及び駅前施設群を、平らなプレートが軽やかに浮いたテーブルの集まりとして構成します。駅前空間を単なる通過動線ではなく、人とも、人とテーブル、テーブルとも、人と人が交わり、関係し合うことで出来事が生まれる卓上の場 = プラットフォームとして位置づけます。



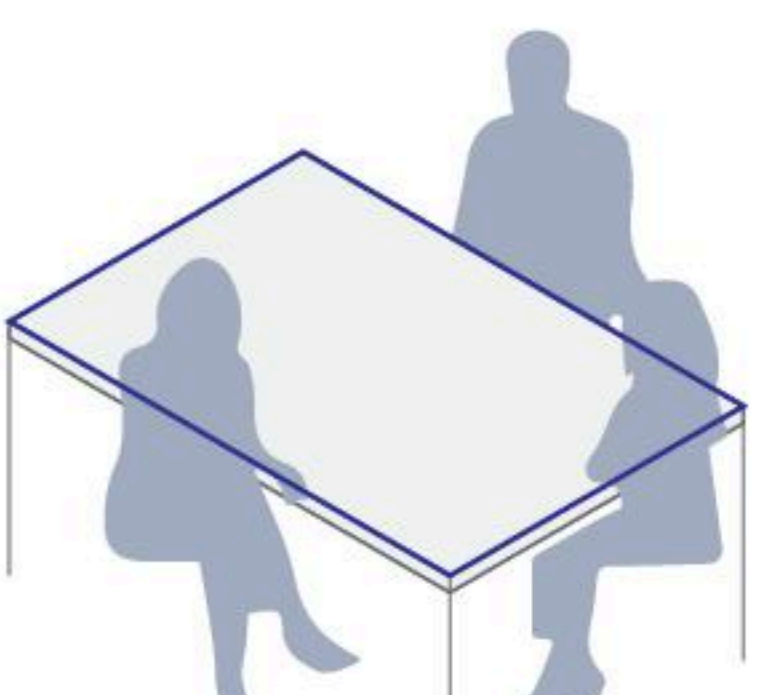
## まとまりとしての on the table

地区整備計画に関わる組織体として「on the table 会議」を立ち上げます。行政だけでなく、商店会、マイクロクリエイションオフィス、若手事業者による Go On 常陸多賀、学生による Taganial、子ども食堂・多賀り屋食堂など、既存の組織や市民活動と接続しながら、これらのハブとなる概念になります。

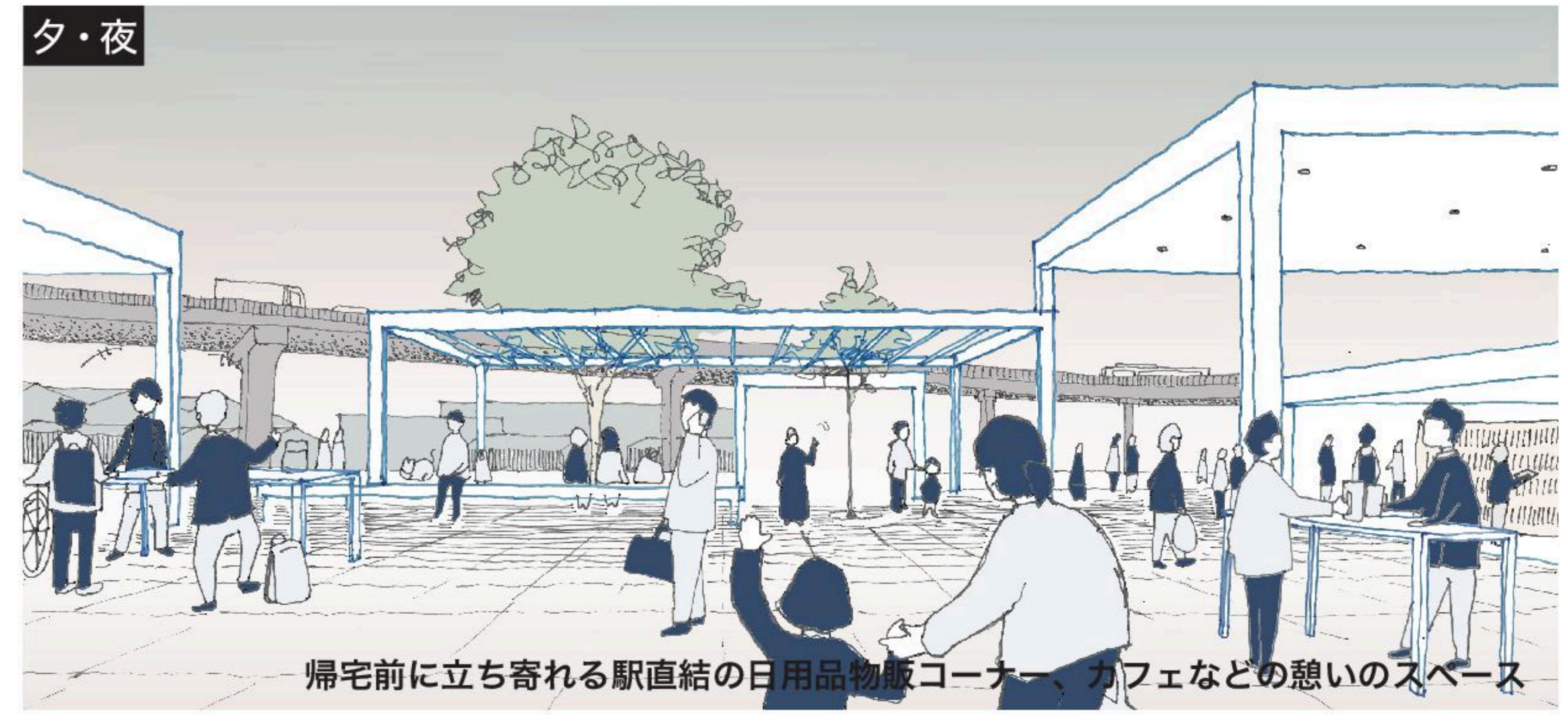
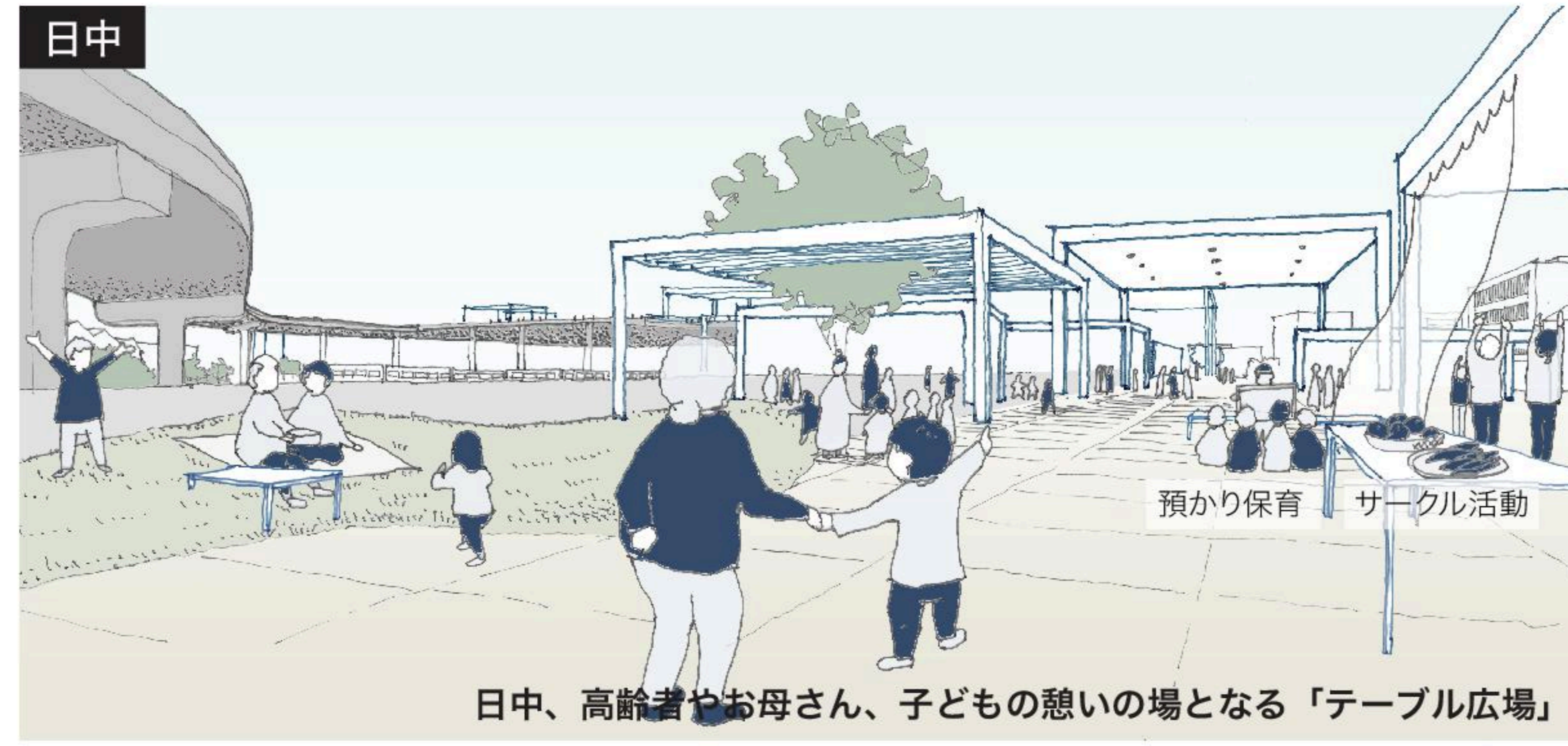
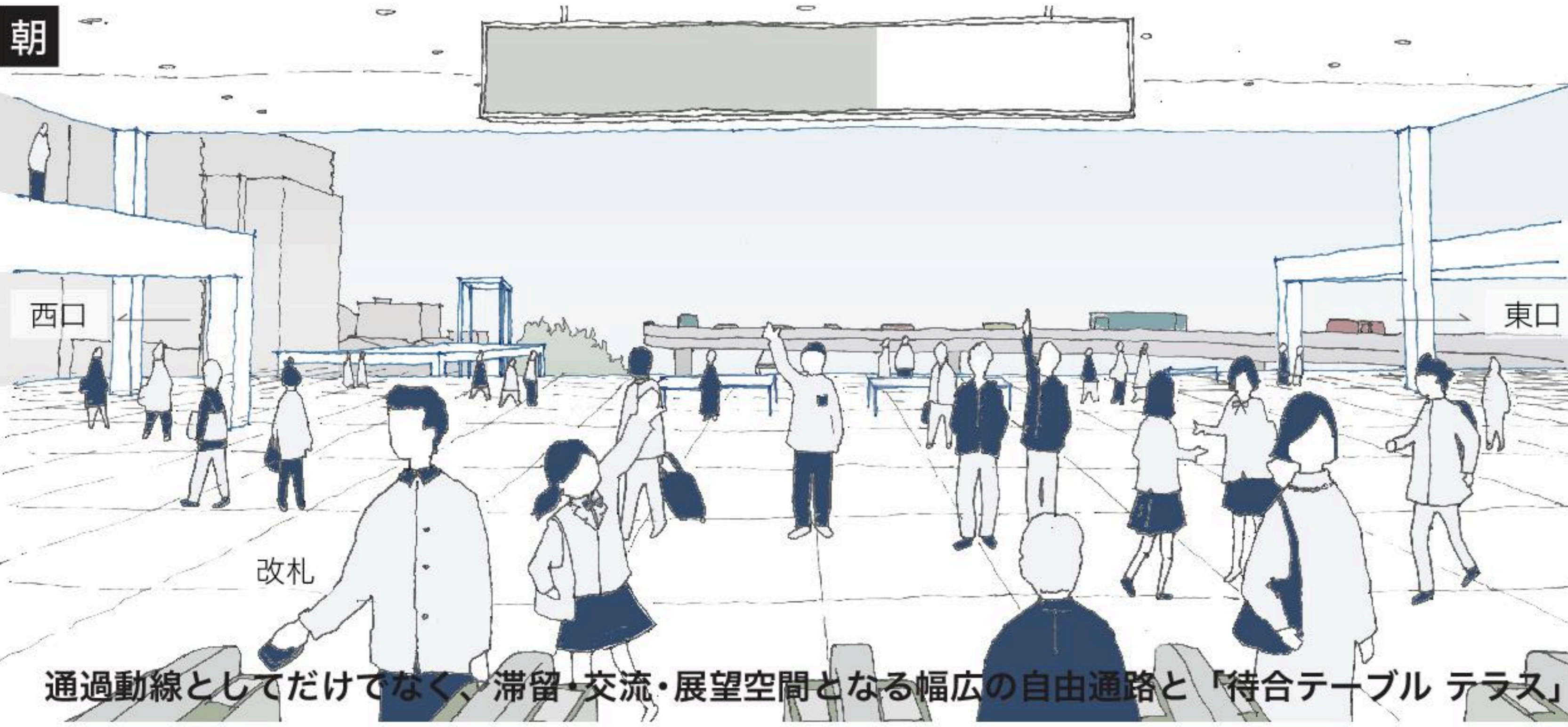


## ふるまいとしての on the table

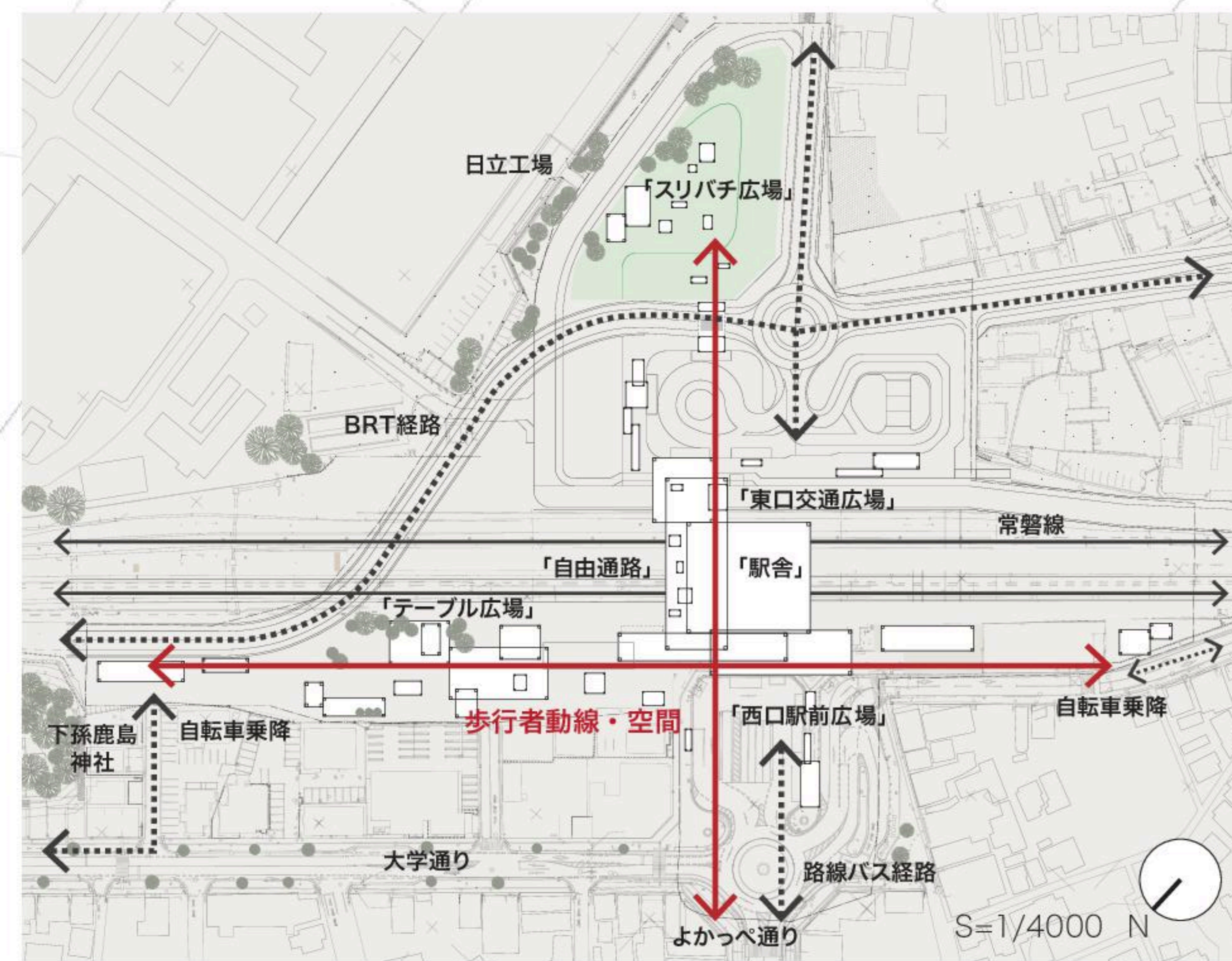
部屋で、庭先で、町角で、誰かとテーブルを囲んだらそこは既にまちづくりの拠点です。「on the table する」「#on the table」という言葉とともに、テーブルを囲んで語り合う姿が常陸多賀の新しい市民生活・市民活動の日常の風景として周囲に伝播していきます。



## 時間帯に応じて多様な居場所を見つけられるテーブルの集まりとしての駅前施設

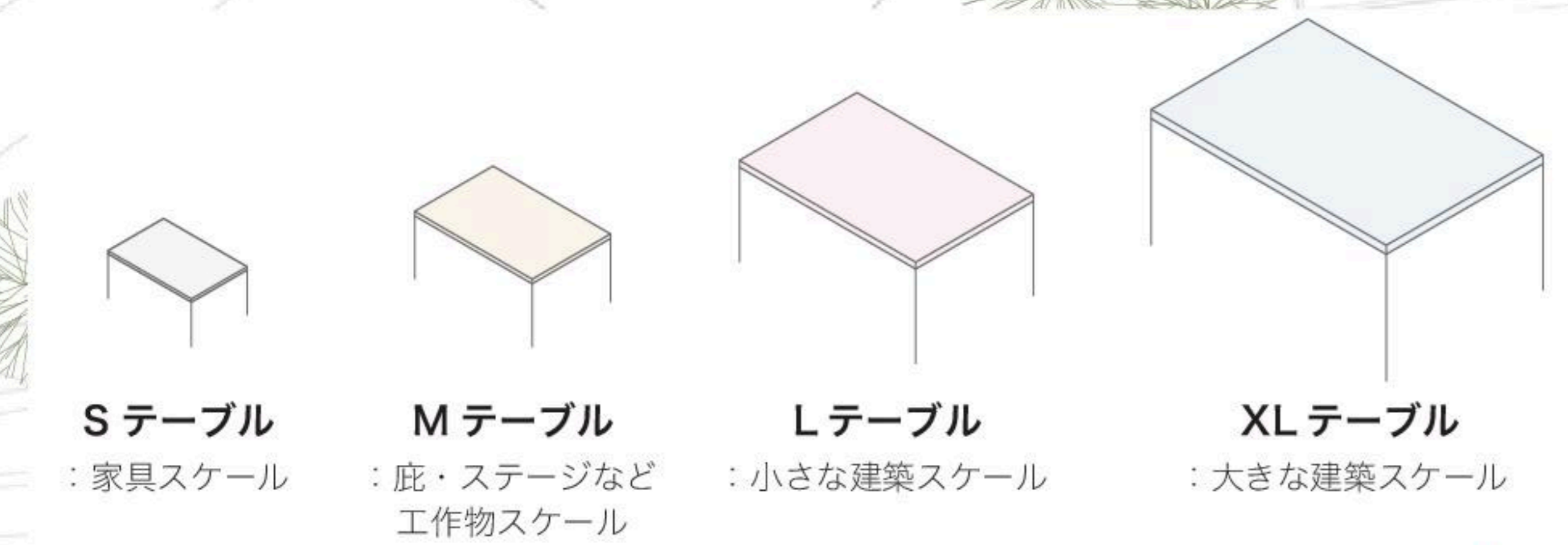


# [みんなの] on the table



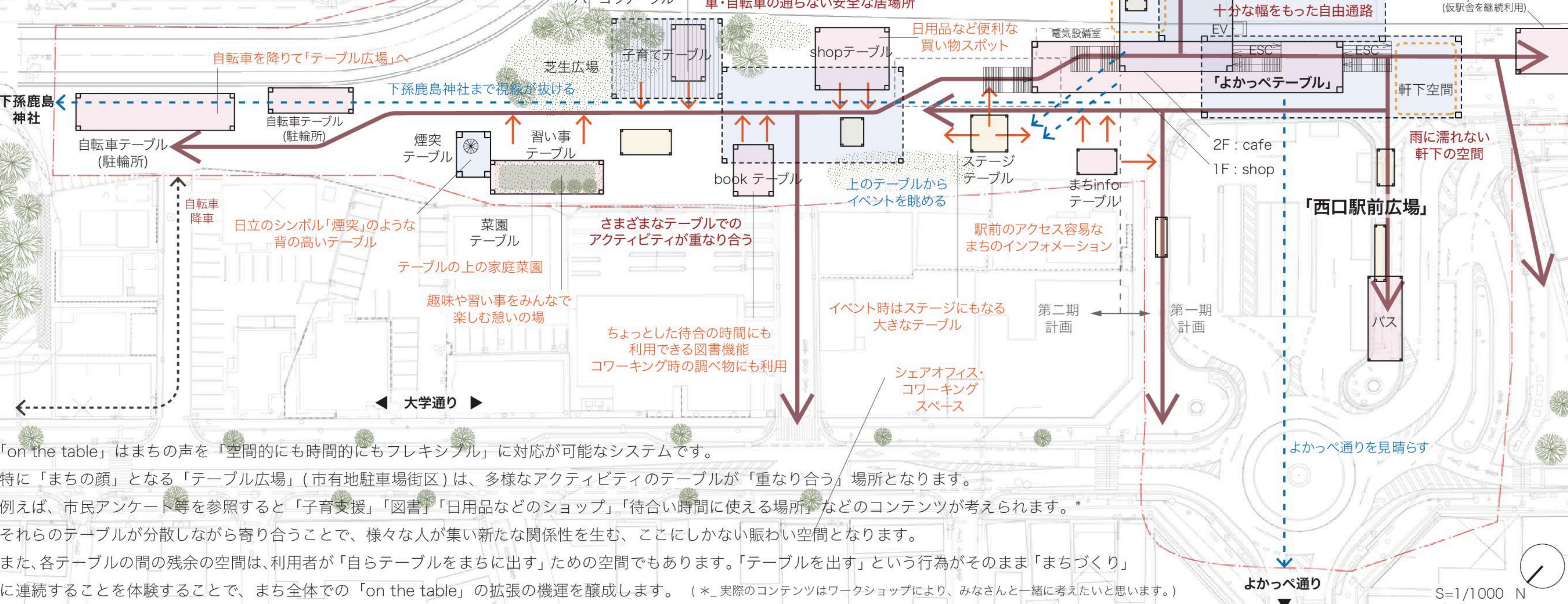
## 「テーブルの集まり」による都市計画

「常陸多賀地区周辺整備計画」に基づくコンパクトシティ+ネットワーク計画では、BRT や駐輪場の整備と共に駅周辺に拠点となる「人=歩行者のための動線・空間」が必要です。「テーブルの集まり」として歩行者動線・空間を計画することで、東西・南北の分断を回避した「程よいスケール」の都市計画を実現します。

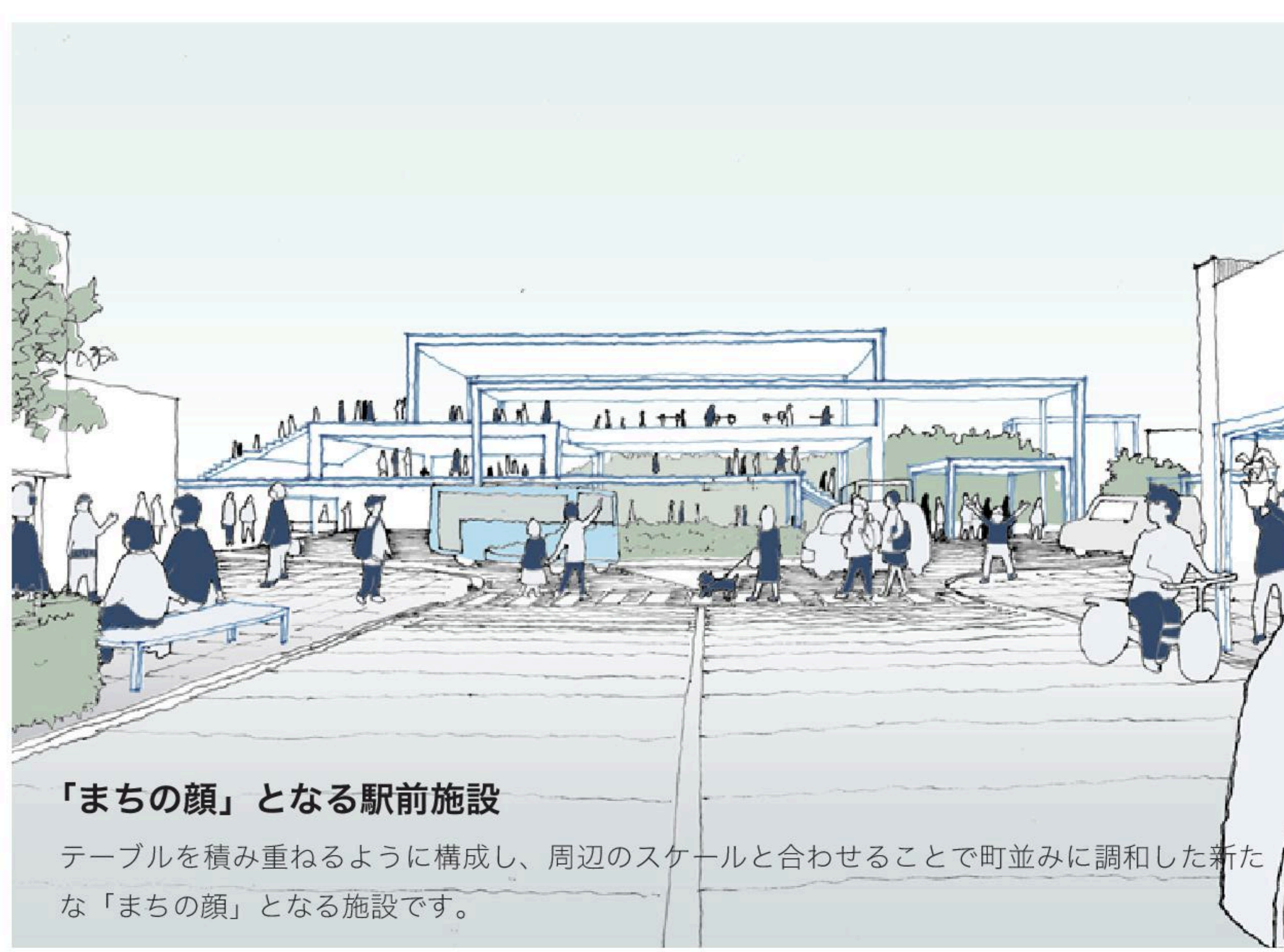
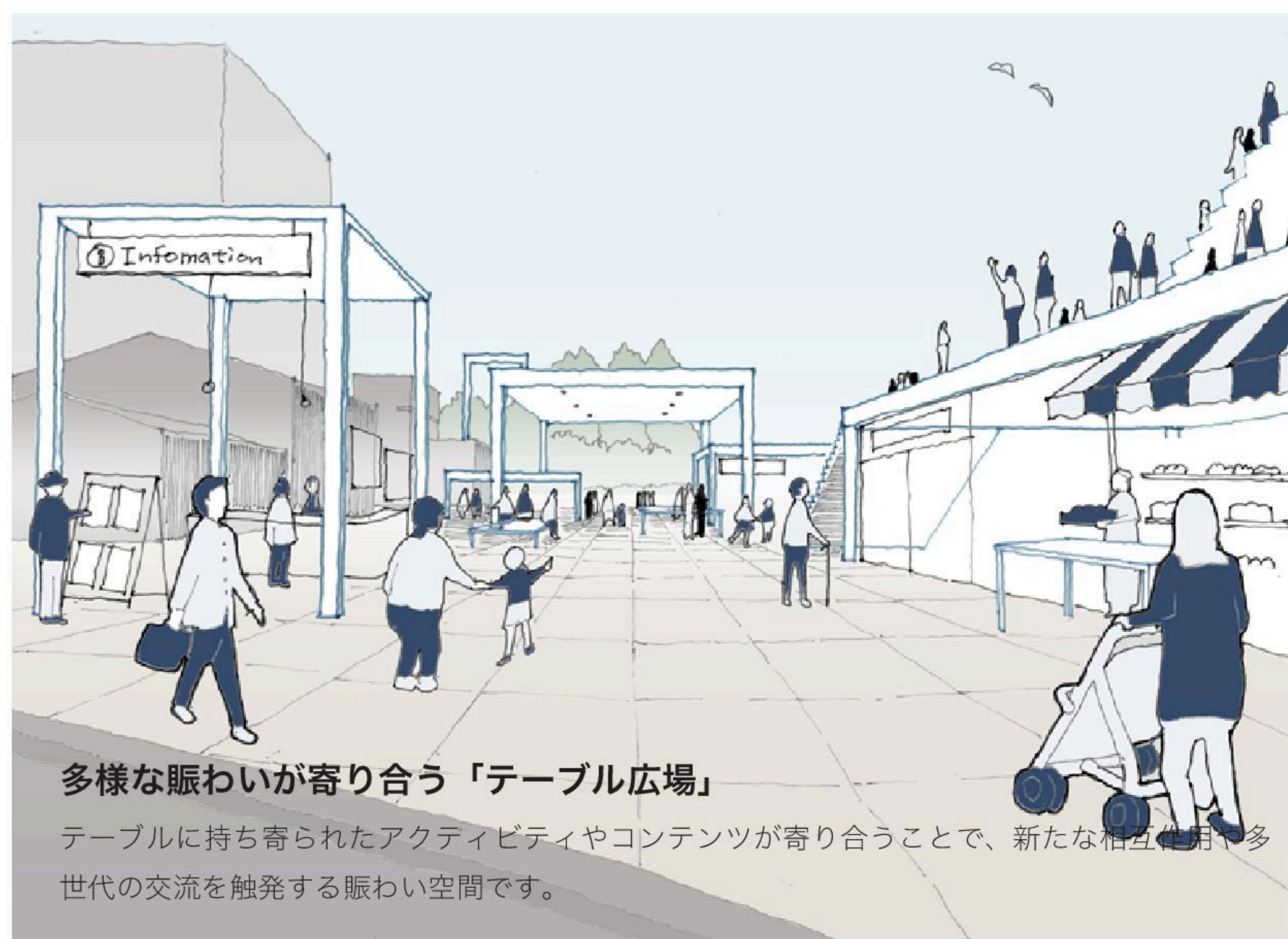
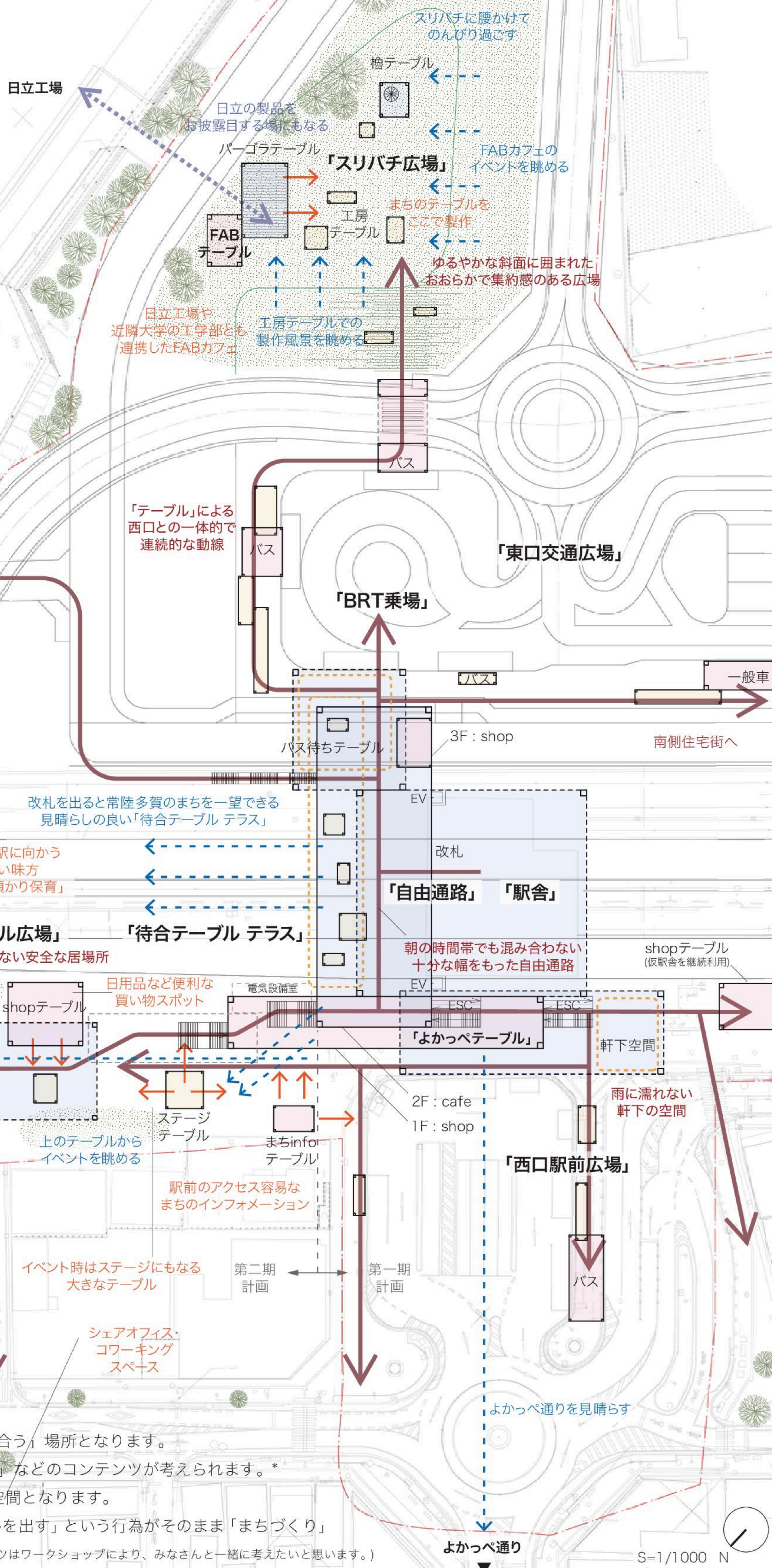


## 様々なスケールのテーブルで居場所をつくる

小さな家具スケールから大きな建築スケールまで、同一の「テーブル」のポキャブラリーで構成することで、人やものとの多様な関わり方が促されます。



「on the table」はまちの声を「空間的にも時間的にもフレキシブル」に対応が可能なシステムです。特に「まちの顔」となる「テーブル広場」(市有地駐車場街区)は、多様なアクティビティのテーブルが「重なり合う」場所となります。例えば、市民アンケート等を参照すると「子育て支援」「図書」「日用品などのショップ」「待合時間に使える場所」などのコンテンツが考えられます。\* それらのテーブルが分散しながら寄り合うことで、様々な人が集い新たな関係性を生む、ここにしかない賑わい空間となります。また、各テーブルの間の残余の空間は、利用者が「自らテーブルをまちに出す」ための空間でもあります。「テーブルを出す」という行為がそのまま「まちづくり」に連続することを体験することで、まち全体での「on the table」の拡張の機運を醸成します。( \*\_ 実際のコンテンツはワークショップにより、みなさんと一緒に考えたいと思います。)

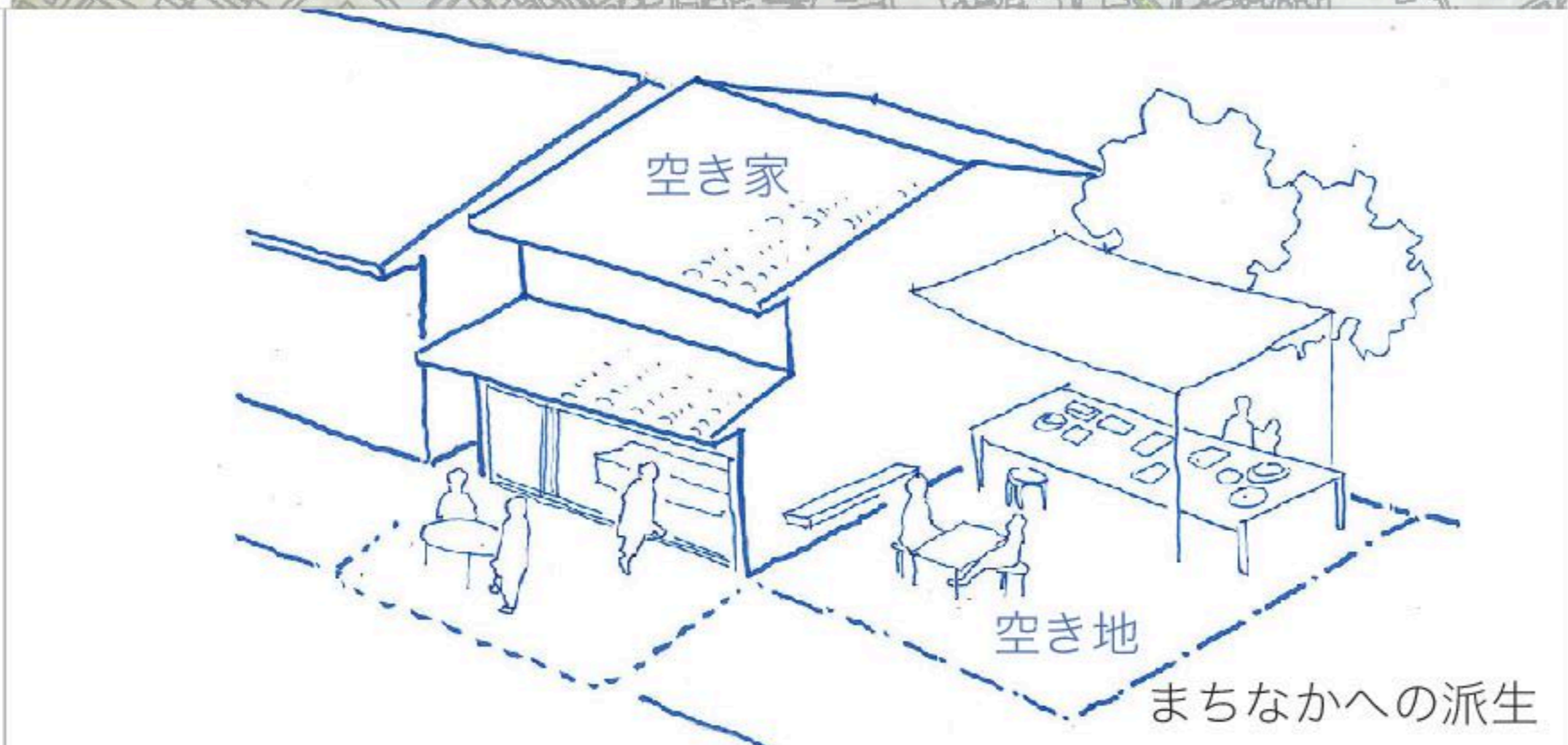
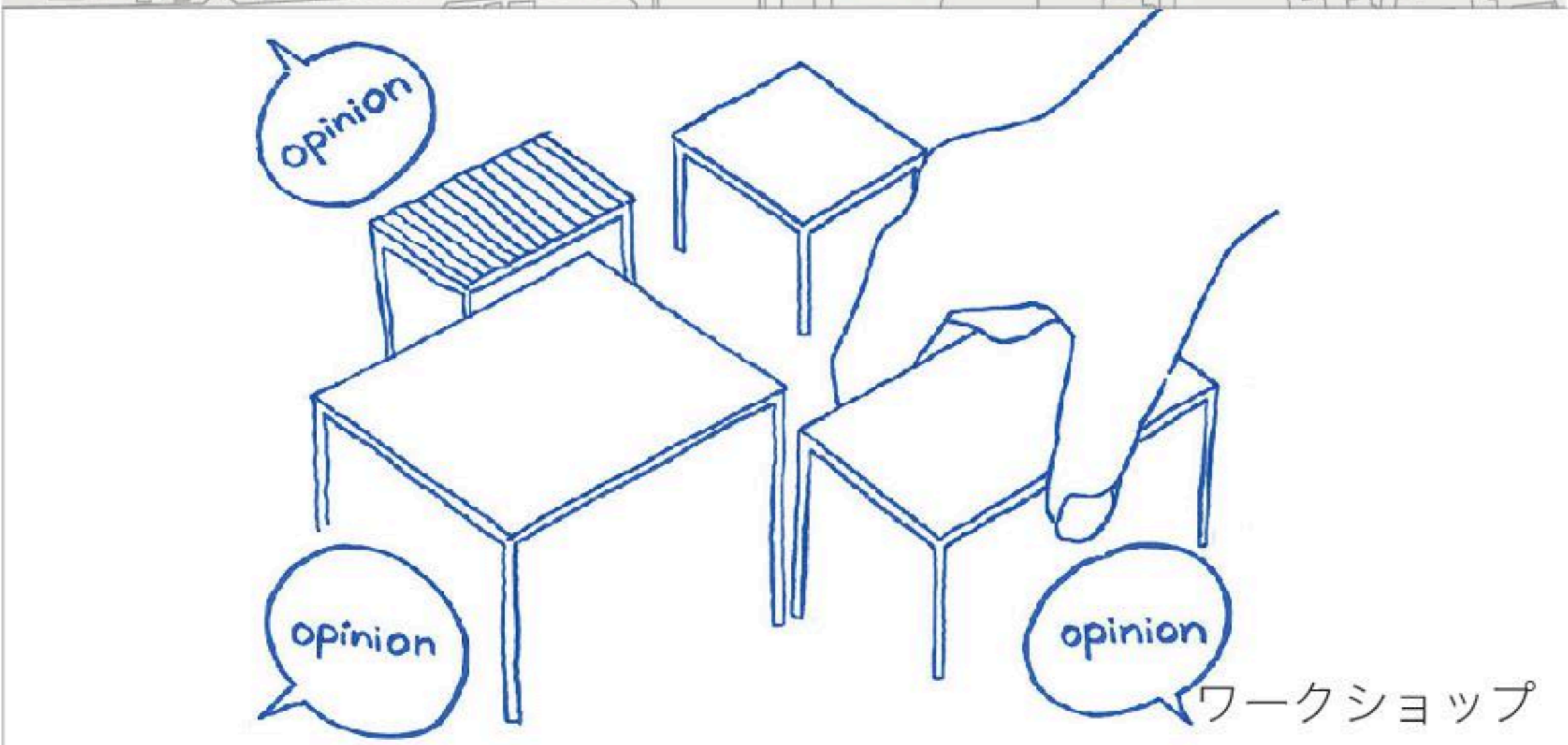
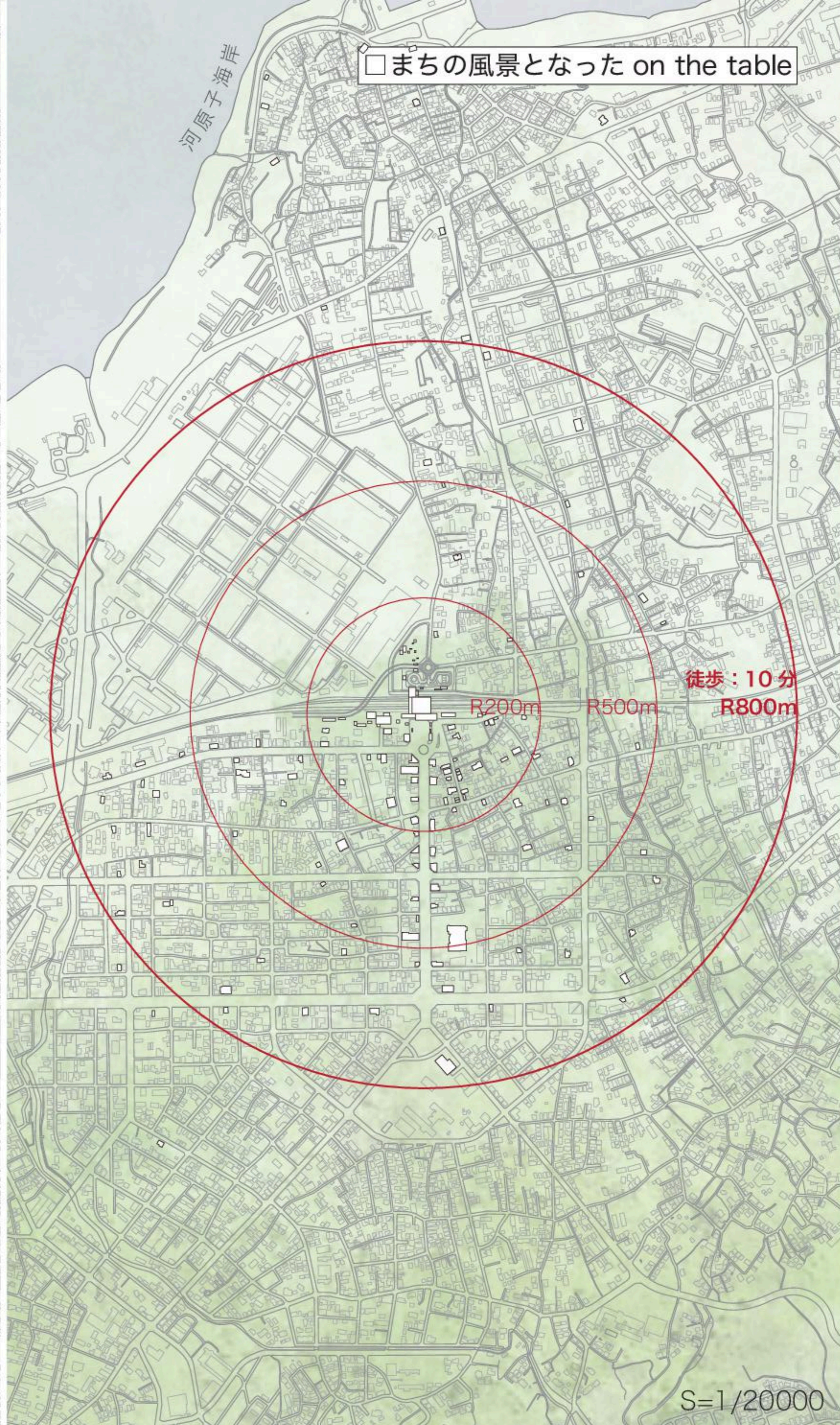
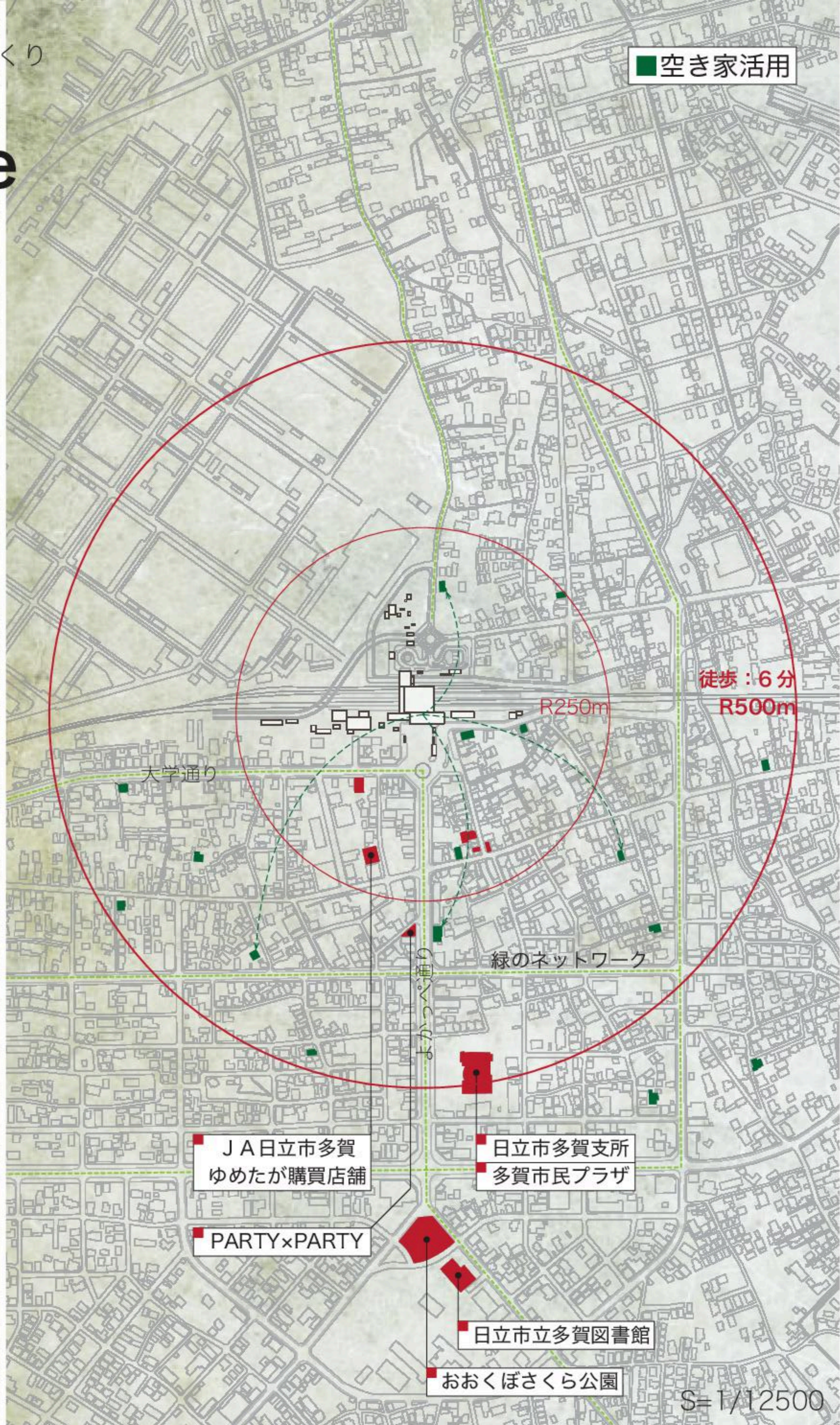
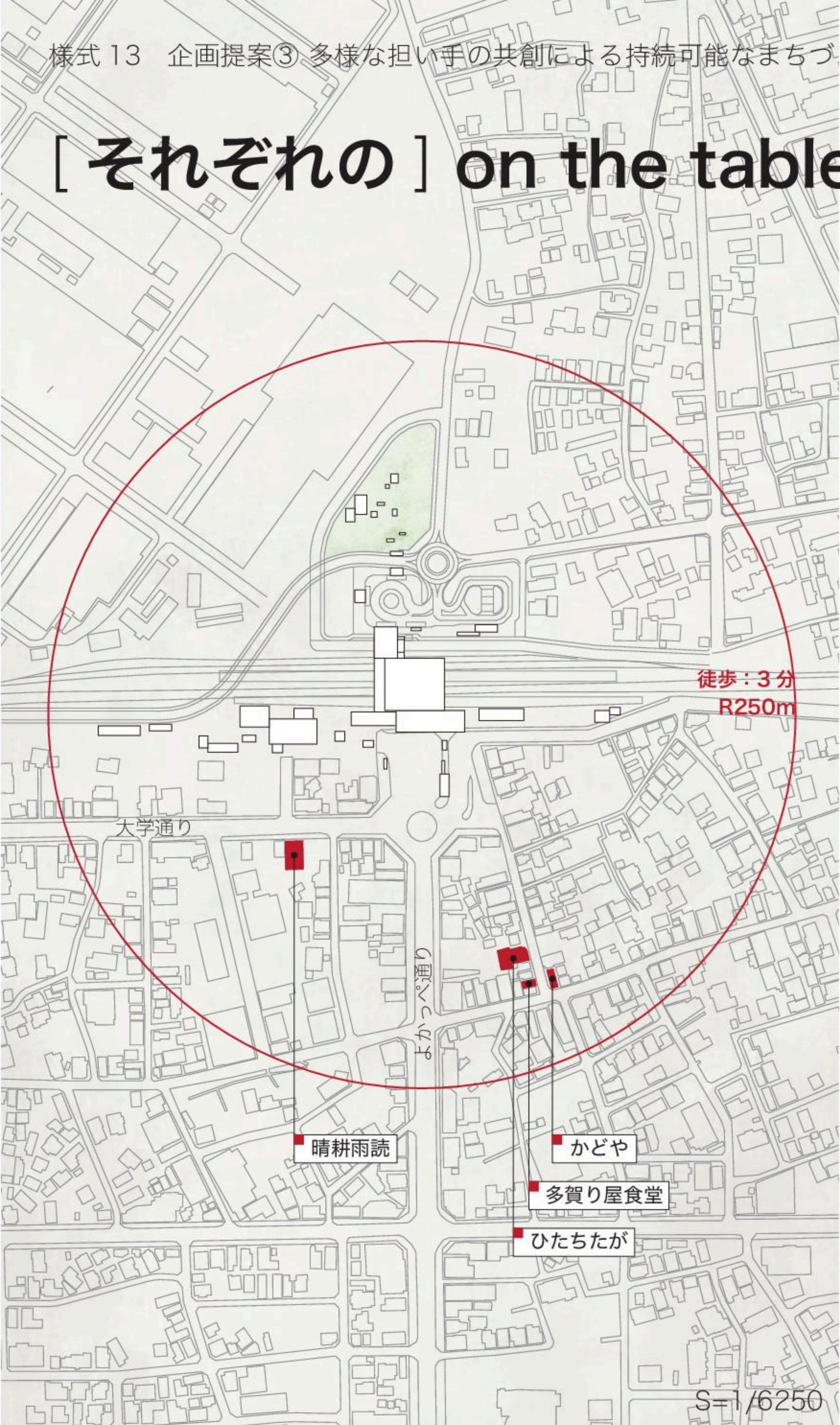


**駅とおおらかにつながる「スリパチ広場」**  
東口は、ゆるやかな斜面によるスリパチ地形とし、おおらかに駅と接続します。日立工場や近隣大学と連携した FAB カフェを設置し、常陸多賀ならではのモノづくりの風景が展開されます。

**多様な賑わいが寄り合う「テーブル広場」**  
テーブルに持ち寄られたアクティビティやコンテンツが寄り合うことで、新たな相互利用/多世代の交流を触発する賑わい空間です。

**「まちの顔」となる駅前施設**  
テーブルを積み重ねるように構成し、周辺のスケールと合わせることで町並みに調和した新たな「まちの顔」となる施設です。

# [それぞれの] on the table



## #on the table の担い手たち

**技術者 @ 工場勤務**  
 @ 東口 FabCafe  
 今日の新製品について地域のみなさんとの意見交換

#onthetable  
 #fabcafehitchitagaj # スリバチ広場  
 #ふっくら御膳 II



**高校生 @ おじいちゃん同伴**  
 おじいちゃんの付き添いで駅前へ  
 BRT が通ってからとりあえず毎日駅前に通っているみたい  
 何もしていなくてもよいのが気が楽だとか...  
 定員さんとはもう顔なじみのよう

#onthetable  
 #ひたち BRT



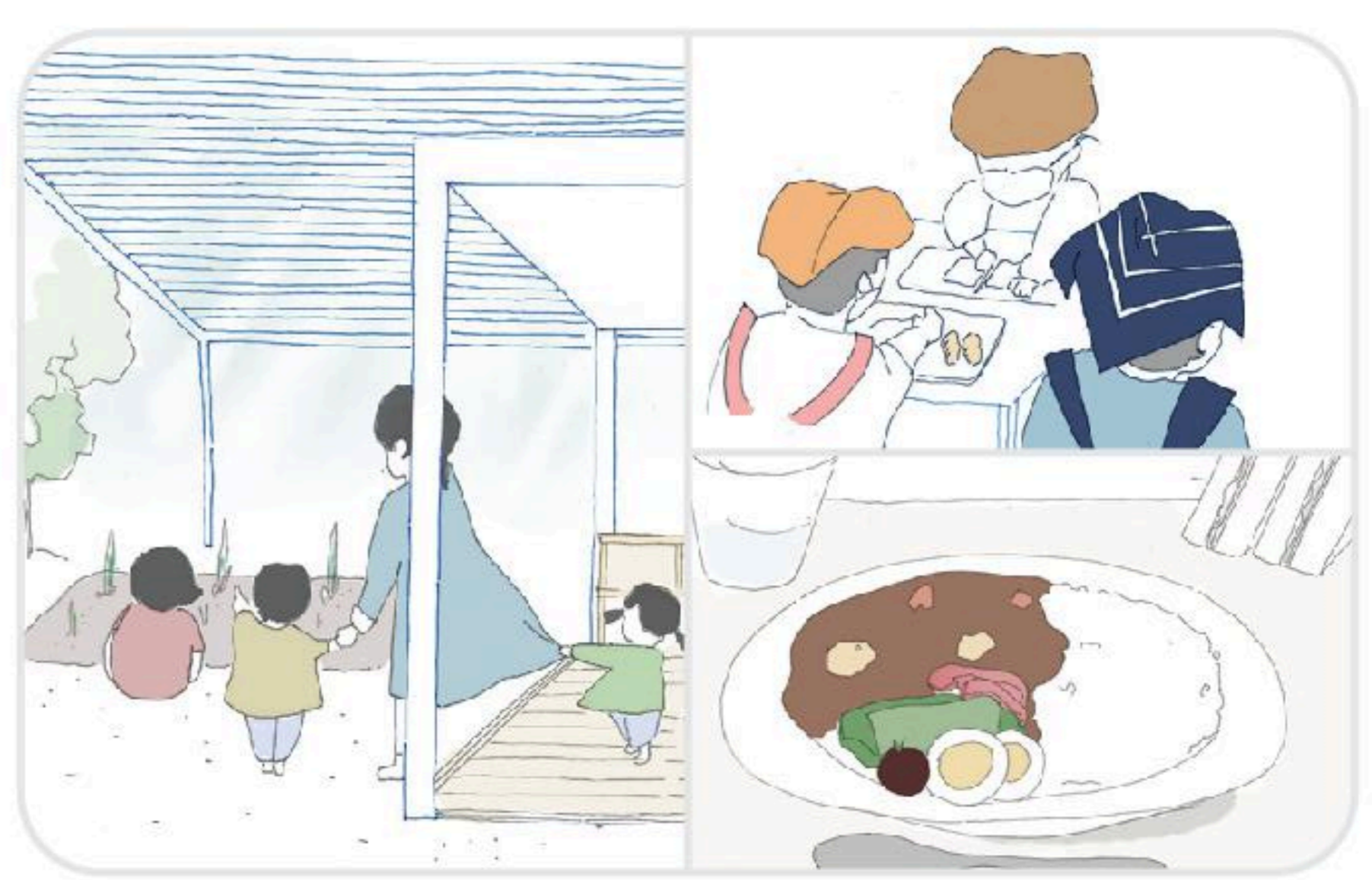
**観光客 @ 久しぶりの常陸多賀**  
 @ #常陸多賀駅 (in 日立市, 茨城県)  
 駅前が新しくなったみたい  
 info で町案内マップをもらう

#常陸多賀 #街歩き  
 #ひかり食堂 #背脂にぼしラーメン  
 #onthetable ってなに



**主婦 @ 2 児の母**  
 今日の料理教室は菜園テーブルで収穫した食材を使った具沢山カレー！  
 自分達でいただいた後は子ども食堂に提供！  
 そろそろ子どものバスの時間  
 駅まで来てくれるから便利～

#onthetable# 送迎保育  
 #多賀り屋食堂 #多賀り屋出前食堂



**新規飲食店 @ 商店街**  
 【本日より】  
 駅前のマイクロクリエイションオフィス # 晴耕雨読さんに続き、駅東口の物販コーナーでもお弁当販売を開始しました！  
 BRT をご利用の方、工場勤務の方はぜひ！

#onthetable# 多賀地区マークプロジェクト  
 #お弁当はじめました



**大学生 @ Taganial**  
 授業終わりに FabCafe イベントへ  
 最後に新製品の炊飯ジャーで炊いたご飯をご馳走に！  
 そしてこれからそのまま試験勉強...

#onthetable# taganial  
 #fabcafehitchitagaj  
 #期末試験



### 短期的な実践： 市民の声を反映する on the table の実践

意見を述べ合うことは最も身近な on the table の実践です。大小様々なテーブルを並べただけのシンプルな建築 / 家具システムは、プランニングの自由度が高く、WS での意見に柔軟に対応できます。意見のヒアリングに止まらず、市民が自ら決定プロセスに参加し、つくり手がそのまま担い手・使い手となることで、シビックプライドの醸成に寄与します。

常陸多賀には多賀地区商店会、マイクロクリエイションオフィスかどや・ひたちたが・晴耕雨読、若手事業者による Go On 常陸多賀、学生による Taganial、子ども食堂・多賀り屋食堂など、様々な市民活動が存在します。これら既存の取り組みと連携しながら計画を進めることで、駅前だけが潤うのではなく、新しい駅前とまちなかの既存施設・活動が相互に補完・強化し合う関係性をつくります。

その他の市民活動の例：  
 緑 LINK 常陸多賀、コミュニティスペース Cocoon, Hyphen など

### 中期的な展開： 市民主導による on the table の拡張

駅前施設には市民活動スペースをあえてやや不足気味に計画し、「満たされすぎない」状態としておくことで、駅前に納まりきらない市民活動が次第にまちなかへと派生していき、既存施設とのコラボレーションや空き家・空き地の新規活用が促されます。

形態としても機能としても、駅前施設だけでは完結させないオープンエンドなあり方とすることで、まちなかにパラパラと散らばったその他の施設や活動も、連続した on the table の一部として位置付けられ、まち全体の賑わい創出に寄与します。

- 既存施設・取り組みとのコラボレーションの例：
- ・かどや寄席出張編 駅前ステージテーブルでのおおぞら寄席
  - ・送迎保育・一時預かりを行う子育てテーブルでの多賀り屋出前食堂
  - ・暮らし・アート系の書籍を駅前に充実させ、市立図書館のサテライトとしての機能に特化
  - ・コミュニティスペース Cocoon や空き地を利用したアートイベント

### 長期的な展望： 公共性としての on the table の自走

on the table は、決して特別でない、だからこそ誰もが参加することができる開かれた概念です。その考え方が浸透していくと、日々の暮らしの中で次第に意識せずとも概念のみが自走し始めます。そのときにはもう「on the table」という語は誰も用いないかもしれませんが、その概念は常陸多賀の新しい公共性となって、地域固有の風景のように存在し続けます。

- 実現される将来像：
- ・既存のポテンシャルから見出される、ここにしかない新しいまちの魅力とアイデンティティ
  - ・駅前を起点としたまちなかの賑わい空間の創出
  - ・地域ブランディング、シビックプライドの醸成による U ターン・I ターン人口の増加
  - ・学生、若手事業者の主体的な地域参画による次世代の担い手の育成と引き継ぎ